

サクラランボ雇用67人

県内

出だし好調、長期就労も

年より進度は速いとし、

求職者の発掘と雇用の確保に向けて情報発信などの取り組みを強化する。県内や宮城県内の大学からの援農学生の受け入れ計画も進んでいる。

今年の県内サクラランボ労働力の確保状況について、J Aグループ山形地域担い手サポートセンターは28日、山形市の県JAビルで開いた報道機関との広報懇話会で、既に67人の雇用を確保したと報告した。昨年比べ、出だしは早く、4月初旬〜7月上旬までの長期就労を確保した例もある。

労働力の確保状況は、さくらんぼがしね、さがえ西村山、てんどう、やまがたの主要産地JAへの巡回聞き取りで、24日現在でまとめた。

それによると、求人数はJAさくらんぼがしね管内の160人、JAてんどう管内の146人など合計406人。これに対し、求職者数はJA

やまがた管内の69人、JAてんどう管内の40人など合計169人。

J A無料職業紹介所などを通じた求人・求職者のマッチングの結果、67人の雇用を確保した。

このうち、神奈川県の40代の男性は4月初旬から7月上旬までの日程で天童市内で就労している。東根市でも千葉県

の60代の女性が4月初旬から働いている。東京都内の60代の夫妻も東根市で5月20日から働いている。

県外からの就労者は北は青森、南は大阪、兵庫などに及ぶ。リピーターも少なくない。

地域担い手サポートセンターは、最終的に189人の雇用を確保した昨